

糧食

左ノ通り給糧船辨丸ヲり受入

生野 甘菜 冬 白 貫 反

右ノ通り遠送船辨丸ヲり受入

生野 甘菜 五拾 貫 反

0318

十月十日 土曜 巳午 勞山灣

晴 晴 七二六二 風 北西一

一行動

午前十一時三十分出港原速十節勞山港外石見下會合三午台時  
五十分合戰準備ヲ整へ一ル大砲台砲撃高下一回射撃ヲ終り  
勞山灣ニ返棹同七時三十分投錨入

一作業

若宮丸戦死者今村三等機関兵曹遺骸柳丸等取回不レ總員  
鬼送ル出港后ノ作業別ニ提出スル戰鬪詳報ノ如シ

一雜

明石參謀次長來艦暫時ニシテ退艦

毎 日

0319

一令達

口今出港スル柳丸ニ若宮丸載死者今村様曹遺骨アリ旗櫃ニ  
倣上總員上甲板整列ニ之ヲ送レ

一經理

金銀

被服

糧食

嗜好糧食品

左々通旁山湾ニ於テ日本商人ヲ購入

生野菜等ヲ給与

一衛生

戰時員傷者ニ

0320

十月十日 日曜 巳午 針島北八十度西一哩

晴 三〇七—三〇一  
八三一—六四 無風

一 行動

勞山灣泊

一 作業

海軍重砲隊重砲運搬準備援助ト多下士卒七十名陸上ニ

派遣ス

一 雜

一 合議

口掃海用藥糧整備充毛ノ各艦ヲ持テ居ル会部小地板六枚

毎 日

0321

及小樽縁線約三十米ヲ明日ノ通信艇ニテ松江ニ送リ送附ニ得ル  
数量知ラセ

一、經理

金錢

新井乙掃海陵主計長ヲ艦船經費繰廻金交付方  
要求下之ニ對シ本艦ニハ之カ準備無キ旨回答ス  
被服

左邊運送船辦天丸ヲ受人

生野菜 三百貫匁

0322

十月十一日 月曜 巳午 勞山灣

晴 三四一雲 風南東 一二

一行動

勞山灣泊

一作業

船体兵器保存手入

一雜

一令達

第三艦隊司令第二五號

大正三年十月十一日  
於第七號艦團房

加藤 第三艦隊司令長官

一攻城軍ノ銃攻撃準備進捗ニ從ヒ陸上砲臺ハ我陸軍陣地ニ  
對シ砲撃甚々猛烈ヲ極メ作業困難カ故ニ海面ヨリ我艦

毎 日

0323

隊ノ掩護ヲ要スルコト愈々多カラントス

二本職ハ機ニ應ニ周防其他一ニ適當ナル軍艦ヲ以テ董家灣

方面ヨリ陸上砲臺ヲ砲撃セントス

場合ヨリ哨戒部隊指揮官ニ命テ現哨戒中ノ軍艦ヲ辛砲撃

セラルコトアルヘシ

三本職又哨戒部隊指揮官ハ必要ト認メタルキハ砲撃ニ先テ掃

海部隊指揮官ニ臨時砲撃ニ必要ナル區域ノ掃海ヲ命テ掃海

部隊指揮官ニ指定區域ヲ清掃シ航路ヲ安全ニスルコトヲ努ム

緊急ヲ要スル場合掃海部隊指揮官附近ニテラサルトキハ直接掃海隊

司令ニ掃海ヲ命テスルコトアルヘシ

四省略

五特令アルキハ外砲臺砲撃ノ目標ヲ尤ノ如ク定ム

十月二十三日頃迄

0324

1. 小笠原砲臺

只 小笠原砲臺

十月二十五日頃以降

主トテコイル子入砲臺

成ニ得トハコイル子入砲臺其他附近一帶高地砲臺

七、前項砲臺砲撃ニ當リ灰泉角砲臺ノ應戰ハ我射撃艦ノ行

動ヲ阻害スルコトナクテ以テ同砲臺ニ砲撃ヲ加ヘテ射撃艦ニ

對シ其砲火ヲ牽制シ併セテ同砲臺ノ破壊ヲ圖ラントス

砲撃時機方法等其時ニ臨ミ之ヲ命ス

八、哨戒部隊指揮官ハ砲撃中大公島觀測所ヲシテ彈着觀測

ヲナサシメ適當ノ哨艦ヲ中繼トシテ旗號又ハ無線電信ニヨリ觀

測ノ結果ヲ砲撃艦ニ通報セシムヘシ

九、十、十一、十二、十三、省略



十四、明十日前八時頃ヨリ周防、丹後、英艦トライアゴヲ以テ灰  
泉角砲臺、ワイルド砲臺ヲ砲撃セントス、周防、英艦八午前  
六時出港速力十節ヲ勞山港外ニ向フ丹後八午前八時迄  
ニ勞山港外ニ來リ本隊ニ合スヘシ  
十五、省略

(終)

一、經理

金錢

被服

左ノ通り佐世保海軍經理部衣糧科ヨリ受人  
一、平本、士、碎、月、章、式、拾、何、外、五、章

0326

十月十三日 火曜 正午 勞山灣

晴 三三三三三三三三  
七三三三三三三三  
風 南々東 一一二

一、行動

勞山灣泊

一、作業

船体兵器手入

一、雜

一、令違

一、周防本日ノ砲撃ヲ取止ム

一、周防八明朝六時出港砲台ヲ砲撃手入

第三艦隊第二二三號ノ二四

各指揮官ニ訓示

0327

以襄三麾下ニテ艦ニ於テ赤痢病發生セシ以テ當時其撲滅ニ對シ

訓示スルトヨリレカ爾來同病ニ終息セサルコトヲ漸次蔓延セトスルノ

兆アリ之甚ク憂フキト云ヒテ若シ該狀態ニテ推移セシ其結果ヤ大ニ

惧ルキモヤリ又指揮官ハ宜ク部下ヲ督勵シ豫防撲滅ノ實ヲ擧

茲テ本病ヲ絶滅セシムル期スレ

今左ニ本病豫防撲滅ニ施スル要ナル事項ヲ列擧シ以テ其勵行ヲ

促サントシ之等ノ事項ハ其勵行ヲ俟ツテ初メテ効果ヲ奏スルコトハ

指揮官ハ深ク此點ニ留意シ銳意事ヲ處シ以テ遺漏ナキ期スレ

一、各自ヲシテ暴飲過食ヲ省キ下痢アルキハ猶豫ナク受診セシムレ

一、生動物ニ切之ヲ食ハトシカラス

一、生水飲用ハ年素既ニ嚴禁スルトヨリト雖モ此際一層其監督ヲ

嚴メシ

一、飲料水蒸餾器ヲ有ス艦船ニテハ專ラ蒸餾水ヲ用ヒ若シ同器ノ

0328

備ナリ運送船ヲ供給ヲ受ケルモノニテハ其搭載ニ當リ毎回軍醫官ヲ  
シテ敵艦ノ水質検査ヲ行ハスル

一、食器消毒器ヲ備ヘテ艦船ヲテ其消毒ヲ勵行スル

一、側圍ハ能クキ限リ絶ヘテ海水ヲ流通セシメ若シ構造上之ヲ許サルモノハ頻  
回海水ヲ通シテ常に清潔ニ保持シ且ツ時々消毒薬ヲ注キテ消毒  
セシムル

一、上圍者洗手ノ敵ヲ勵行セシムル

一、多数ノ蠅叩ヲ製シテ冬期所冬食卓等ニ配備シテ自ラテ機會  
毎ニ蠅ノ撲殺ニ努ムル

一、艦外所々ニ齋ヲ配備シ蠅ノ捕撲ヲ計ルル

一、寢具乾燥成ルルヲ屢々行ハシムル

一、壁外ハ速ニ之ヲ處分シ長ク推積セムルカラス

大正三年十月十三日

第三艦隊司令長官

加藤定吉

清 算

一、經理

金錢

渋谷佐世保經理部第一課長代理受領方依頼し置キリ

本艦十月分經費現金千拾八円六拾錢運送船剣山丸ニ至

計長より受領ス

被服

糧食

左ノ通り喫食九千九百九拾八圓

生野菓千五百六拾八圓

0330

十月十四日 水曜 正午 勞山灣外

晴 三〇・三〇・三〇・三〇・三〇  
七二・一一・六七 風南三

一、行動

午前十時出港 董家灣沖至リニ面ノ砲撃ヲ灰泉角ニ加  
ハ勞山灣ニ返投午後一時十分投錨ス

一、作業

砲撃作業ハ別ニ提出ス 戰闘詳報如レ午後砲機手入及  
射撃準備ヲ行フ

一、雜

本日砲撃ノ周防丹後及トライアヲ文五ニ之ヲ行ヘリ  
敵艦一英艦ニ命中死傷者有クモ大

0331

一、今迄

日本日午後五時出港ノ英駆逐艦「アム」ニ対シテ口乗組戦死者遺骸ヲ全駆逐艦出港ノ際ハ旗艦ニ倣ヒ總員上甲板ニ列列シテ之ヲ送レ

昨夜八時頃艦隊ヲキチ西表泊望樓ノ西ヲ北航スルニ明日午後四時迄ニ全カラ出レ得ル標準準備ト置ケ

第二艦隊機密第四電號

第二艦隊命令

大正三年十一月十四日  
於赤七地盤旗航國防

一、佐世保鎮守府ヨリ無線電信ヲシテハ昨十三日午後八時西表望樓ニハ其西方約三十哩ノ所ニ艦隊ヲレキモノ、檣燈三個速力約十五節ヲ南ヲ北ニ通過スルヲ認ムルト云フ

二、敵艦隊所在今尚不明ニテ其出没機敏ニ行動照ラレ敵ハ我カ封鎖線ノ擾亂ヲ企圖スルヲ知レズ

0332

三、當隊ハ哨戒ニ層層嚴シク同時ニ全カヲ與キテ之ニ備ル所アラントス  
四、現ニ哨戒ニ從事中ノ各艇ハ今夜警戒ヲ嚴シク又艇艇ハ總テ明十  
五日午後四時迄ニ全カヲ出シ得ル様様隊ヲ準備シ置ク

五六項省略

七、本職ハ明十五日午後二時國防石見莫艇最上ヲ率ヒテ出動運力  
十節ニ塔連島ニ向テ舟後同島附近ニ本隊全カヲ置キ其後  
外方哨区ノ艦ヲ左ノ如ク配置ス

要點

夜間

國防石見舟後莫艇地凡三地M三附近 地凡九地L四間更ニ遠哨戒

最上

右第一幹線上地凡四南ニ干渉

八九十、土項省略

十一、敵ヲ発見スルトキ左ノ如ク行動ス

十二、敵ヲ発見スル哨艇ハ速ニ無線電報ニ敵ト接觸ヲ保持シ



ク本隊ノ方ニ誘致スレ

ロ、第二戰隊第一隊ノ戰鬪速カヲ五節トス

ハ、沖島見島ハ敵勇出方面ニ頭トシテ本隊ノ至ル迄極力敵ヲ防止

スルコトニ努ムレ、第二戰隊第二隊ノ戰鬪速カヲ十節トス

ニ、第二戰隊ノ第一、二小隊ハ一隊トナシテ、小隊毎ニ連繫係ケル敵艦船

隊ノ斃手減ニ努ムレ

ホ、岡田司令官ハ利根及駆逐隊ニ隊ヲ以テ本隊ト共同シテ敵ニ對シテ機ヲ

見テ誌衣戰手ヲ決行セシメ

ヘ、熊野丸、東丸、淀橋丸、松江乙掃海隊聯合掃海隊、連送船、勇

山、瀧ヲニ在泊若クハ歸港シ、特令ニテハ熊野丸艦長此等特務船

ノ進退ヲ指揮スレ

ト、甲掃海隊ハ勇山港ヨリ敵ヲ警戒スレ

チ、第九艇隊ハ勇山港ヨリ警戒シ、敵艦之ニ近ハ誌衣戰手ヲ決行スレ

0334

リ、上村司令官ハ千歳秋津州ニ率テ直ニ出動第四戰隊及驅逐隊  
ニ隊ヲ以テ依然封鎖ヲ強行シ膠州灣ノ敵艦脱出ニ備ヘ機ヲ見テ  
本隊ト協力シテ敵艦隊ノ擊滅ニ努ムレ  
又、航空隊ハ機ヲ見テ敵艦ニ爆弾投下ヲ決行スレ

第二艦隊司令長官 加藤定吉

一、經理

金錢

被服

左ノ通、舞鶴海軍經理部衣糧科ニ還納

卒軍帽并印章 但使用ニ堪ヘサルモノ

0335



十月十五日 木曜 乙午 双子島北至度西一七哩

雨 雲 一 一 三 五  
六 二 風 東南東 二

一、行動

午後四時四十分出港塔連島に向ヒ午後七時六分全島ノ南方  
十哩ニ達シ塔連島ト靈山トヲ結フ線ノ外方十哩ヲ警戒航行ス

一、作業

旗山ニ派遣セシ將校一、信号兵ニテ撤リ午後五時三十分  
合戦準備ヲ完成ス今土時頃ヲ遙カニ青島方面ニ探照燈  
光ヲ認め

一、ブランド大佐一時乗艦本日ノ航行陣形第一隊及英艦煩番  
号單縦陣

一、

0337

二令達

口今夜敬言戒航行中至速カ七節ヲ用テトライアエトハ我カ艦尾艦

極速カ燈ノ用法ヲ知リ若クモ規定速リ艦尾敬言戒燈ヲ用ヒ且

口今夜豫定行動午後七時ノ見リ地点ニ達シ其ノ針路西

ノ南正午左舷面頭針路ヲ反轉ス

口日没後ヨリ至速カレラス

口合戦準備ヲ夫(五—三四分受)

口今夜艦内四道哨兵ヲ配備シテ警戒戒

第二艦隊機密第一四三—一〇二

大正三年十月十五日

第二艦隊參謀長 吉田清風

左件 通知ス

海軍第六号大正三年十月五日海軍省人事局長宛

0338

殊勲及勲功顯著たる者ニテ是等階級の場合特別進級件

海軍進級規則第三條三項及三官房第五三五號ニ依リ

所轄長カ其部下ヲ進級セラルルニ當リ明カニ殊勲者ト認ムル

ルモノハ別トシテ其他ノモノアリテ所轄長ニ依リ多ク見解ヲ異ニ

シ同等ノ功績ノモノニテ或ルモハ進級ノ恩典ヲ享スルモ或ルモ否ニ

ルカ如キ場合モ出スルコト存セシ候ニ就テハ貴各部下ニ於テ本件

ノ事項發生候節即ハ其取扱上ニ公平齊一ヲ保持スルニ通

當テ手殿ニ講セシ様御取計相成度為念

右ノ事ニ進ス

進テ善行ニ事行状如キモ所管長官ノ認可ヲ經テ所轄

長ニ於テ特ニ陞級復級ヲ行フテ制度ト相成リ候ニ付本

本件モ亦所轄長ニ於テ所管長官ノ認可ヲ得テ實施

スルカ如キ方法ヲ執ルニシテ穩當ト被存候ニ付此旨申添

一經理

金錢

被服

左通佐佐保海軍經理部衣程科ヨリ隻入

第一種消耗品  
士軍帽 三十一個外一奉

第二種消耗品  
附赤章 五 一併

第三種消耗品  
襪 八十一個外三奉

第四種消耗品  
衣 九十個外一奉

左通海軍經理部衣程科ヨリ還付

禮裝用二軍下士臂章三個外二奉

0340

十月十六日 今五曜 正午 塔庫島燈台北西〇八哩  
 雨 三〇四—三〇七  
 六九—一六五 風東 四

一、行動

午前零時十分針路ヲ轉東トス午前七時塔庫島ヲ左舷船四  
 点ニ認メテ後微速トシ塔庫島附近ヲ航行午前十時十分別  
 項正午位置ニ投錨六午後五時四分出港昨夜如ク行動  
 久別項令達ノ如ク一部變更セリ

一、作業

船体兵備手入及信管取附ヲ行フ

一、雑

0341



二合連

口今夕より塔連島三回(蘇六一界受)

口必要十九艇窓防水扉防水蓋ヲ閉ケ

口午前十時塔連島北側ニ返頭ノ予定

口十二時ニ對ス罐ヲ残シ後ハ消火直ニ点火レ得ル標準備ニ覺

(蘇九一四五受)

口日没頃出港ノ予定

口本日ヨリ五分ハ夕食事畢事点檢時刻ヨリ十分先操ルガ

口今夜ノ予定行動錨場ヲ午運七節ニテ七時半頃「R」地点ニ

達シ其ヨリ針路西ノ南正子左舷回頭針路ヲ反轉ス

口今夜艦内直哨兵ヲ配備シ警戒ニ付

(後略)

0342



十月十七日

土曜

正午勞心灣

晴 三〇五—三〇七  
七六一—六六

風 北々東 三

一、行動

午亦零時針路ヲ及轉シ徑航路ヲ逆航シ塔連島ニ飯投午亦  
八時三十分該燈台北ニ理ニ漂泊全十時三十分暈動ヲ起シ勞  
心灣ニ向ク午後零時三十分投錨碇泊

一、作業

午亦八時合戰準備ヲ復曰午後休業

一、雜

遙拝式ヲ行ス

0344

一人之邊

口周防午之時頃迄搭連島附近より其より勞心湾に向フ  
口風波ノ為損害ナカリヤ  
(本航損室也)

一經理

金錢

被服

糧食

糧食配給現況ニ付大要左通佐吉保海軍經理部衣糧

科長(中)練(第三艦隊司令官)旗艦主計長)

當隊各艦船ニ對シ糧食ノ配給ニ就テハ怠慢ナク之ヲ評スレバハ

口浦在泊中ハ配給上稍遺憾ノ點無之ニテナリシモ然力山湾ニ進

出後ハ生糧品其他最モ潤澤ニ配給セラレ更ニ不都合ヲ感シ

0345

事ナリ各艦船共大ニ満足ヲ表シ居レリ今日迄給糧専用船  
 梅丸ノ来航ハ僅ニ二回ナル均ク現時ノ如ク生糧品ノ豊富ナル  
 ハ天候靜穏ニテ又度々容易ナルヲ封鎖鎖海面力從ニ則ヨ  
 リモ引續クモレタルコト隨テ各艦船自然同一區域ニ集團セシメ  
 等ニ職由スルニ我ト存案得共其最モ有力ナル原因トシテ又運  
 送船ノ何モニ生糧品ヲ搭載セシムルコトヲ以テ第一ニ指摘スキ理  
 申下存案由來出陣隊所屬艦船ハ小型ノ艦船ニテラサレハ冷  
 藏装置ノ不完全ナル曰式軍艦ニ屬シ生糧品ノ貯藏能力  
 カ極メテ貧弱ナルヲ以テ同一時ニ多量ノ生糧品ノ提供アルヨリモ  
 常時時間斷ナク生糧品ノ提供アルヲ以テ頗ル便利トナル狀況ニ  
 有之矣乍下係一雨テ冷氣加ハルニ從ヒ幾分各艦ノ貯藏能力モ  
 擴大セラルヘト存案ニ付今後生糧品ノ配給ハ益々煩瑣ニ向フヘキ  
 シ確信致シ高島般ハ口浦在泊中一部ノ艦船ニ充分ナカラ

毎  
 日

0346

本浦より生麴色を受ムノ機會有シ莫任毎裏ニ房山灣  
 ニ進出後ハ全然生麴色供給仰ク途杜絶セシ依リ氣  
 候ノ漸冷ヲ俟ツテ只科ヨク之カ供給ヲ仰クヲ得ハ程余取  
 配給上一層煩良タル得ヘト存矣要ス現下ノ狀況ハ新鮮ナ  
 ル生糧品續々潤澤ニ配付セラレ配給上最モ好成績ナリト信ス  
 左ノ通り福州丸ヨリ受入  
 塩魚肉 冬拾母及

0347

十月十八日

日曜

正午 針島西北一哩

晴 七三〇  
一一三〇  
六五

無風

一 行勤

勞山灣泊

一 作業

艦内大掃除 午後休業 故萬千穂艦長以下 遺骸ヲ火葬ス

一 難

萬千穂遭難

一 令違

日夜間 八層敷き戒ヲ嚴シテ 特ニ燈火ノ漏洩ナキニ注意セヨ (四時)

0348

外(口外)ニサル様殿堂ニ取締ニシタシ(参謀長ヨリ)

高千穂ニ關シテ公報発布ニ付沈没原因其他ニ關シテ切部

(佐田 清)

0349



十月十九日

月曜

乙午

勞心湾

暴風雨 三三—五八

風 北々西七

一行動

勞心湾泊

一作業

船体兵番手入午右八時四十分より大島附近ニ現レト報アリ

艦内ニ直哨兵ヲ配備シ警戒ス

一雜

故高千穂艦長以下ノ遺骨ヲ本艦ニ収容シ之ヲ祭祀ス

一令達

0350

AS% 大公島附近ニ現レタリト云々今夜ニ直哨兵警戒ヲ嚴

ニセヨ

第二艦隊機密第一五號ハセ

大正三年十月十日

吉田第二艦隊參謀長

各艦艇長殿

封鎖戦ノ永續スルニ從ヒ而カニ敵影ヲ見サルキコト久シキニ涉ルト  
キハ自然ニ敵ヲ輕シテ氣風ヲ生レ延テ警戒ハ粗流ル傾向ヲ招キ  
易ク之ニ及レ敵ハ佚ヲ以テ勞ヲ待テ天候ヲ利用ス等隨時ニ攻  
撃ノ機ヲ撰フコトヲ得ルカ故ニ小敵ナリトテ決テ油断スルキニテ今ヤ  
青島從攻撃ノ機迫リ我海陸ノ壓迫加ルニ伴ヒ敵軍ノ苦悶ハ日  
一日ト増進レ来ルヲ以テ穴窮鼠却テ猫ヲ啞ムトシ洵ニ層ノ警戒  
ヲ要スル時機ニ有之候間各艦艇ニ於テ毛御油断無之キ事ト

0351

存シ候得共此際特ニ夜間ノ敵警戒ヲ嚴ニテ敵ヲ発見シタルトキハ瞬間  
時ニ砲撃シテ開始シ得ル準備及夜間燈火ノ陰ニ敵ヲ留意シ又  
艦ノ操縦者ヨリテ敵艦ヲ見ニ對シ即座ニ適當運用ヲナス等又  
又十分ノ注意有之様致度

右依命申進ス

第三艦隊機密日令第三六號

大正三年十一月十八日  
於東京海軍省機密園防

加 廿藤 若小 三 艦隊司令長官

一、出要分向中間外方哨已ノ哨艦ハ夜間左ノ如ク行動スル

二、三、四、五、六、七、項ヲ略

八、船力山灣碇泊ノ軍艦ハ日没前碇泊陣形ヲ變更ス事ナラズ

九、敵艦ヲ発見トキ緊急信号ヲ火箭運送ス

一〇、當分閉止ト得ル場合ノ外日没ヨリ自速去迄勞山灣ニ艦艇ノ

出入スルコトヲ禁ス

0352

二、各艦艇は比降敵艦隊に對し一層警戒を嚴にし  
第三艦隊日令第二七号

大正三年一月十九日  
於此七地点に警戒用隊

加世藤第三艦隊司令長官長官長官

一、當分の間當灣在泊の各艦隊諸艦は夜間別圖に警戒位置ニテ  
アラ警戒スル

二、蘇記各艦は日没迄に警戒位置に就き晝間ハ日出後便宜に晝  
間泊地ニ復歸スルモノトス

但し晝間具休警戒位置に止マルモノトス

三、何分ノ令アルに於テ第二艦隊法令第四号ヲ 錨地ヲ使用ス

一、經理

金錢

被服

本日より被服物品と交互に交換を行フ

（後世にハカシ）

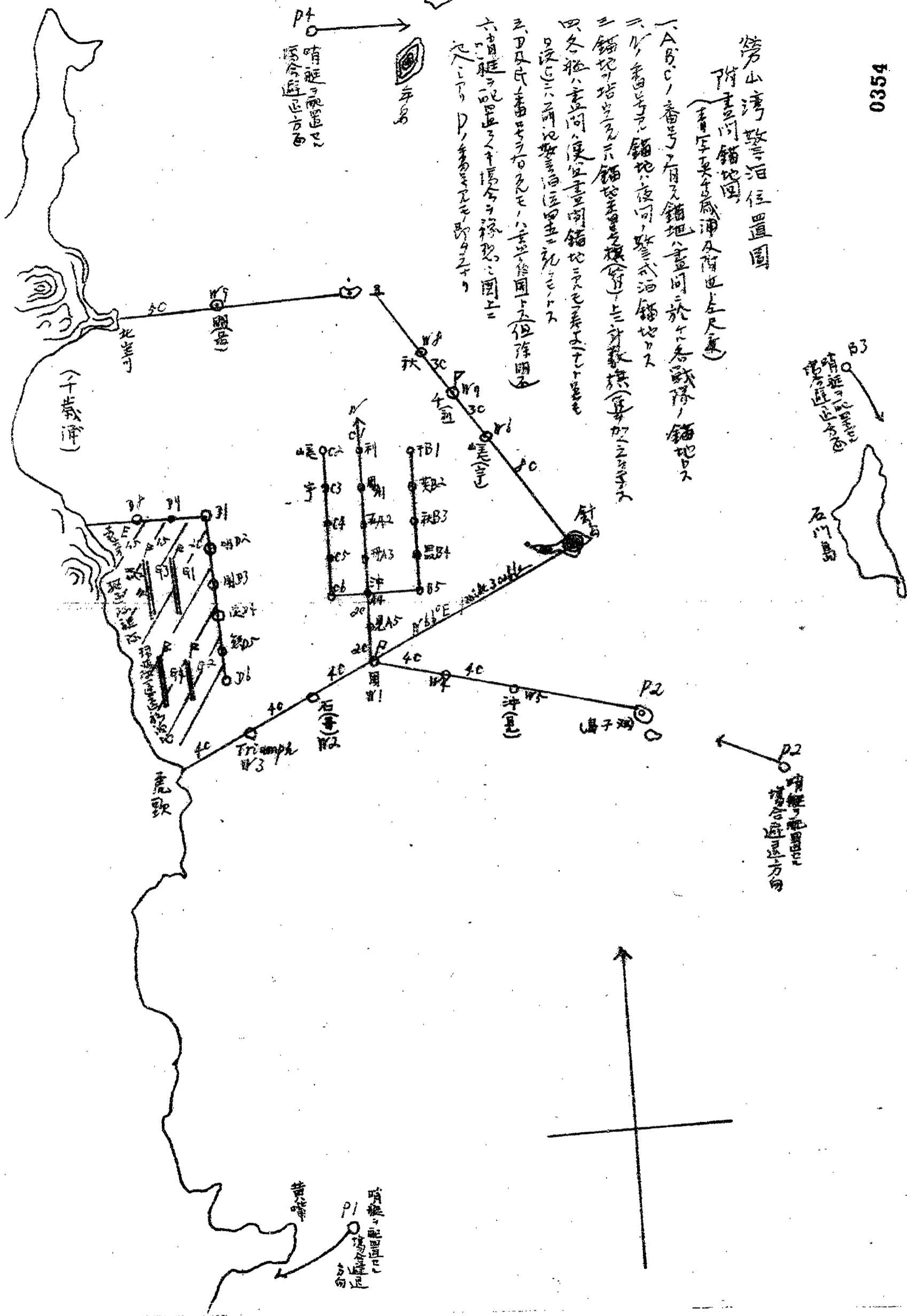
0353

勞山灣 錨泊位置圖

附註同錨泊圖

(本圖係由本島海軍及商社各處)

- 一 A.B.C.ノ番号ノ有ル錨地ニ並同ニ於テ各隊ノ錨地ヲ
- 二 錨地ノ番号ニ並同ニ錨地ノ位置ヲ示ス
- 三 錨地ノ番号ニ並同ニ錨地ノ水深ヲ示ス
- 四 各隊ノ番号ノ有ル錨地ニ並同ニ於テ各隊ノ錨地ヲ
- 五 各隊ノ番号ノ有ル錨地ニ並同ニ於テ各隊ノ錨地ヲ
- 六 各隊ノ番号ノ有ル錨地ニ並同ニ於テ各隊ノ錨地ヲ



十月二十日 火曜 正午 勞山灣

晴 三四三三〇二三  
五九一五三

風 北西 四

一 行動

午後四時三分別項命令ニ依ル警戒錨地ニ變更ノ見、錨地關係  
上固有錨地ニ變更ニ及ビ、午後五時三十分針島南五十度西  
六七度ニ投錨

一 作業

水雷防禦索綱ヲ取附テ展張教練ヲ行フ午後休業

一 令達

0355

Table with multiple columns and rows, mostly blank or illegible. A vertical label on the left side reads "第 一 冊" (Volume 1).

71

0356

十月廿一日 水曜 正午 勞山灣

晴 三〇 碧 一三 三九  
六六 六一 五二 風 北西 一

一行動

午後五時五分出港 固有警戒 碇地ニ就ク

一作業

午前六時五分 朝鮮丸 左舷ニ横附ケ 載炭用 意全 七時五分  
分 剣山丸 朝鮮丸 左舷ニ横附ケ 淡水積取 用意ヲ行フ 午前  
七時五十分 搭載ヲ開始シ 午後一時五十分 終了ス

搭載量

和炭	二七三ト
英炭	一一〇ト
芝罘炭	一一七ト
淡水	八三ト
計	五〇〇ト

一令達

一乘

八八

0357



夕明朝九時出港、朝鮮丸三故高千穂艦長伊東大佐以下  
高千穂艦死者遺骨あり、全船出港降旗艦三隻總  
員上甲板三烈列し運送せし

口日没迄之周防石見八固有警泊錨地ニ就ケ  
第三艦隊日令第三號

大正三年十一月三日  
故在地位艦北周防

加世藤第二艦隊司令長官

一、三、三、四、頃有敵

五、第七地點在河艦艇ハ夜間警戒泊中止ヲ得ル場合、外成ルヘク  
充光信号ノ受信ヲ確クシ

六、自今第七地點C哨艦ヲ廢止ス

七、自今A通信艇ヲ識別ヲ左如ク區別ス

一、第七地點ヨリ哨区ニ往ク者

番号旗 U 旗

二、哨区ヨリ第七地點ニ返ル者

番号旗 K 旗

（後世に伝へる）

九、周防艦長八明三士日砲術長三下士系ヲ附レ浮山觀測所ニ派  
遺ラルル各砲台ノ正確ナル位置備砲ノ種類等ヲ調査ノ上見  
取図ヲ調製提セラル

一、衛生

石炭塔載時ノ負傷者

傷者名

等身級

姓

名

右中指挫創

微傷

四水

高田

吉次

一、経理

金錢

被服

下士等ニ對シ被服物品ノ交付交換ヲ終ル其数量ヲ檢  
下士等ノ三例外ニ四奉

高千穂乗組生方中尉、請求ニ依リ同艦生存者ニ在リ  
通リ被服物品ヲ交付ス

第二種消耗品

下士軍衣一仙外十五疋

第一種消耗品

一等下士臂章一仙外七疋

糧食

左、通達送船三池丸ヲ要入  
生數丹九十四貫五百匁

0360

十月廿三日 木曜 五年 勞力山湾

快晴 三〇・三五・三〇・三  
五七 一 五七 無風

二行動

勞力山湾泊

一作業

午前八時十分統負救助 故高千穂船長以下、遺骨退艦ヲ見送  
リ續キ朝鮮丸ノ出港ヲ見送ル

英軍揚陸援助ノ為メカッタ一夏海軍章冠陸軍用彈藥揚陸援助  
為メ准士官一名下士十名梅丸ニ付シテ派遣セリ

一令達

口周防石見見島利根ハ本日正午迄ニカッタ一夏ヲ英國軍送送船

毎

日

0361

ニ送り莫兵揚陸ヲ援ル

夕剛日午舟入時幸止ニ左ノ通り人負テ陸上ニ送り砲台協司令部

高田大尉、指揮ヲ要シ主砲隊、彈ヲ果格、格ニ從事セシメ

国防 将校一 下士十五〇

見島 准士官一 下士十三〇

事業服弁當携世

第三艦隊法令第五三號

一、第三艦隊編制及艦隊區分左ノ如ク

隊 号

第一 小队

第二 小队

第三 隊

四 周防 三 石見 三 丹後

四 冲島 三 見島

第四 隊

四 千歳 三 秋津洲

三 最上 四 嶮崎 三 宇津

旗 艦 一 A 利根

第一 駆逐隊

(一) 善隊 廿五 駆逐隊

(二) 善隊 廿三 駆逐隊

第三 駆逐隊

(三) 善隊 廿九 駆逐隊

(四) 善隊 廿二 駆逐隊

第二 水雷隊

	水雷母艦	(三) 熊野丸
掃海隊	母艦	松丸
	第一掃海隊	甲掃海隊
	第二掃海隊	第三掃海隊
特務船	刺果丸	定標丸
航空隊	若宮丸	飛行艇六台
病院船	八幡丸	
二、明石八級三、第四隊編入船艇番号六ノリトク		
三、第九艇隊八級ニカノ二水雷隊ニ附属セム		
四、英艦トシカノ二及英駆逐艦アノ二八級ニ分隊四隊ニ附属セム		
(附令)		
第二艦隊凌令ニ号カノ三項ヲ廢ス		
大正三年丁丑日		

0363

第三艦司令長官 加藤定吉

一、經理

金錢

准官以上俸給支給

被服

糧食

左ノ通給糧船梅丸ヲ受入

生麵包九拾壹貫貳百廿拾外三系

左ノ通運送船福州丸ヲ受入

生野菜六百五拾貫

嗜好糧食品

左ノ通給糧船梅丸ヨリ購入

0364





十月二十三

日 金曜

乙子

勞山灣

快晴

五三三三三  
七

無風

一、行動

勞山灣泊

一、作業

海軍重砲隊隊幕格做為昨日余今少人負派遣

一、令書

0366

